

JR笠岡駅周辺整備基本構想



平成30年3月

J R 笠 岡 駅 周 辺 整 備 基 本 構 想

目 次

1 本構想の位置づけ 1

（1）本構想について 1

（2）笠岡市の位置と概要 1

（3）笠岡市の特色 1

（4）本エリアの都市計画上の位置づけ 2

（5）J R笠岡駅周辺エリアについて 3

2 本地区の資源と課題 4

（1）エリア内の資源 4

（2）エリア内・周辺の人の動き 6

（3）エリア内の課題 8

（4）市民アンケート調査結果からの考察 10

3 めざす目標像 12

（1）めざす目標像 12

（2）まちづくりの方向性 12

（3）本エリアで実現する「笠岡暮らし」のキーワード 12

4 都市機能配置方針 13

5 プロジェクト展開イメージ（例） 14

6 第1段階のプロジェクトアイデア 16

1 本構想の位置づけ

（１）本構想について 笠岡市の中心地として、「交流を育む都市機能拠点の形成」「健康をつくる歩いて暮らせるまちづくり」「若者が集う賑わいのあるまちづくり」をめざす

JR笠岡駅周辺エリア（以下、「本エリア」という。）は、かつて寺町・港町として栄え、人の交流・交通の拠点となる笠岡の「顔」として賑わっていた。しかし、近年の急激な少子高齢化や人口減少問題、それに伴って空き家の増加や商店街の空洞化といった問題が副次的に生じるなど、JR笠岡駅周辺を中心とする市街地の活性化が喫緊の課題となっている。

この課題に対処するため、平成27年8月策定の「笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的方向として“JR笠岡駅周辺においては、計画的な整備を図り、拠点性を高めることで、中心市街地に賑わいを取り戻す”ことを示すとともに、具体的な取組みとして「JR笠岡駅周辺の整備」を掲げ、笠岡港旅客船ターミナルやデジタルサイネージの整備、空き店舗利用促進補助金制度の創設、フラワーアート、大学生や高校生との連携など、官民が一丸となった取組みを進めてきたところである。さらに、平成29年度には国道2号バイパス工事が本格着工し、市の社会・経済に好影響をもたらすことが期待されるとともに、JR笠岡駅南部に位置する国道2号の慢性的な交通渋滞緩和等の環境変化も想定されることから、新たに本エリアに人が回遊・滞在する仕掛け・仕組みづくりを行う絶好の機会である。また、本エリアは、笠岡市の中心地として市の社会・経済を牽引し、郊外を含めた市全体に波及効果をもたらす期待も大きい。上記の課題を捉えつつ、市全体をも見据えて、市民一人ひとりが住みやすさを感じ、人のつながりに喜びを抱き、仕事にも満足感が得られるエリアとして、持続可能都市を構築していくことが求められる。

このような背景を踏まえて、本構想は、既存の都市機能や歴史・自然などの地域資源を掘り起こし、本エリアに対するイメージ・期待といった市民意識などを加味しながら、「笠岡らしさ」を最大限に活かしつつ、公共公益施設の集約化や交通機能の向上などによる「交流を育む都市機能拠点の形成」、健康寿命の延伸にもつながる「健康をつくる歩いて暮らせるまちづくり」、次世代の担い手育成にもつながる「若者が集う賑わいのあるまちづくり」を推進していくための基本的な考え方をとりまとめるものである。

今後は、本構想に基づき、10年程度の間で、駅の橋上化や駅前広場整備等の各種事業に着手することをめざす。

（２）笠岡市の位置と概要

福山市中心部まで20km圏、倉敷市中心部まで30km圏の倉敷・福山を含めた約100万人の人口圏の中心に位置する5万人都市

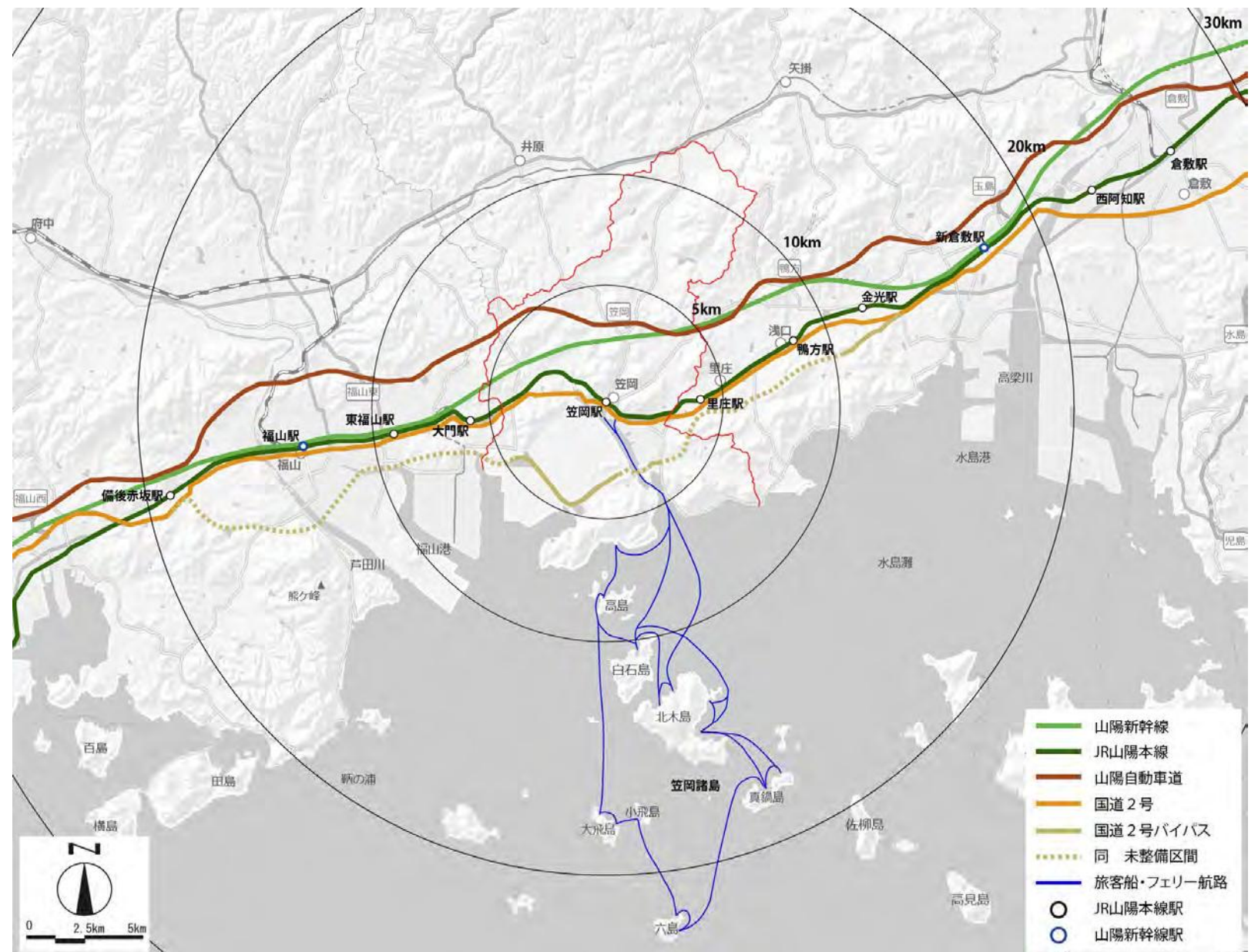
笠岡市は岡山県南西部に位置する、人口約5万人の都市である。中核市の倉敷市と福山市の間に位置し、笠岡駅へは倉敷駅からは約22分、新倉敷駅からは約17分、福山駅からは約13分と近い。井笠3市2町（笠岡・井原・浅口・里庄・矢掛）に倉敷市や福山市を加えた広域で捉えると、圏域人口は約100万人となり、そのほぼ中央に位置しているといえる。

また、古くから交通の要所として栄え、鴨方往来といった旧街道、国道2号および国道2号バイパス、山陽自動車道、JR山陽本線が市内を通り、瀬戸内海沿岸の各都市・地方と結ばれる陸の玄関口であるとともに、笠岡諸島とは海路で結ばれる海の玄関口でもある。

（３）笠岡市の特色

周辺都市から人が集まり、交流しやすいポテンシャルをそなえる

笠岡市は福山市・倉敷市の通勤圏・生活圏でありながら、海・山などの豊かな自然環境や歴史文化資源を有する。約100万人の人口圏の中心としての立地を含め、周辺都市から人が集まり、交流しやすいポテンシャルをそなえている。



(4) 本エリアの都市計画上の位置づけ

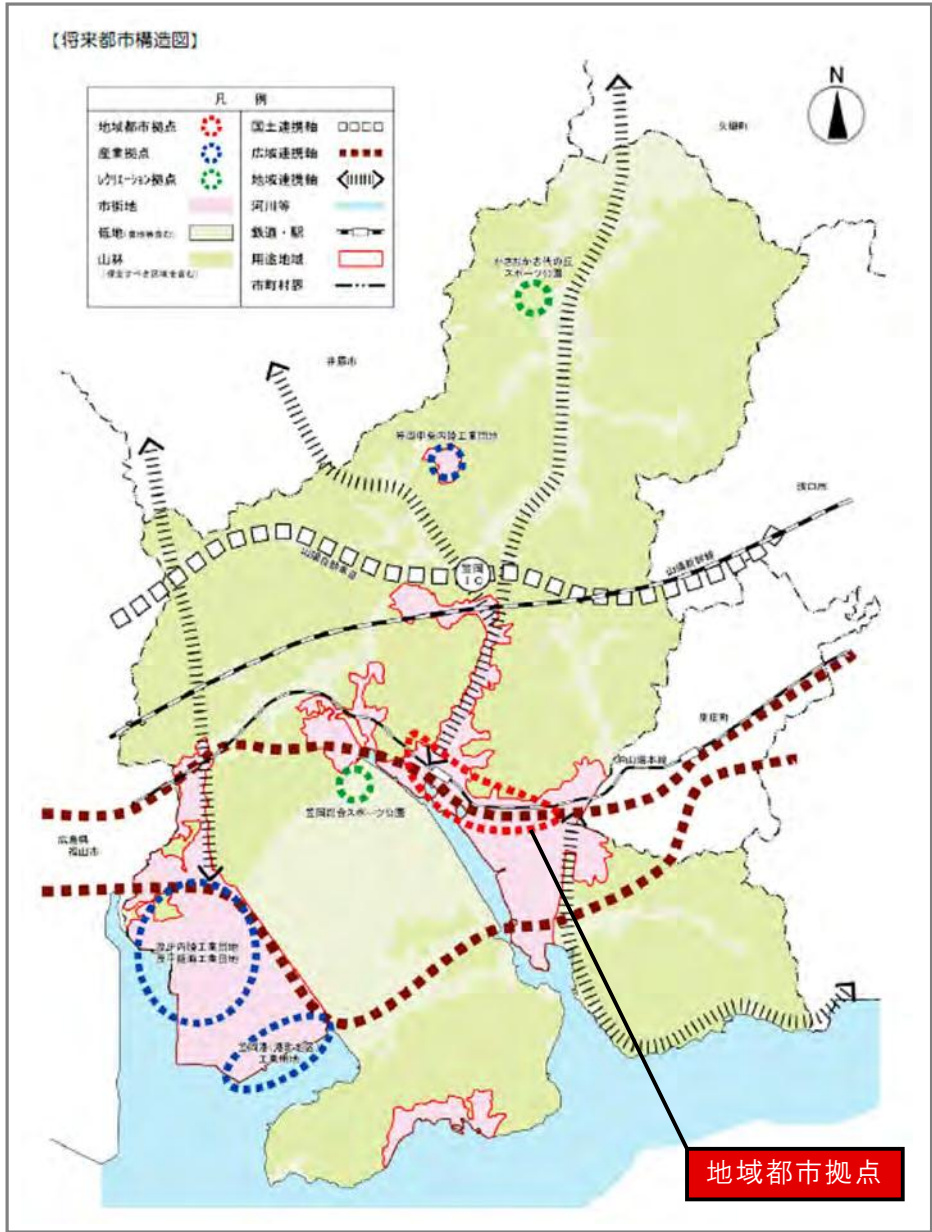
本エリアは、岡山県の策定した都市計画区域マスタープラン（平成 29 年 3 月）において、岡山県南西部の中心として、近隣市と機能分担を図りながら、都市機能の維持・充実を図る『地域都市拠点』として位置づけられている。

また、本市の策定した都市計画マスタープラン（平成 27 年 4 月）においては、本エリアは市全体の『都市拠点』、地域別構想においては、中部地域の『地域拠点』『交流活性化エリア』に位置づけられている。

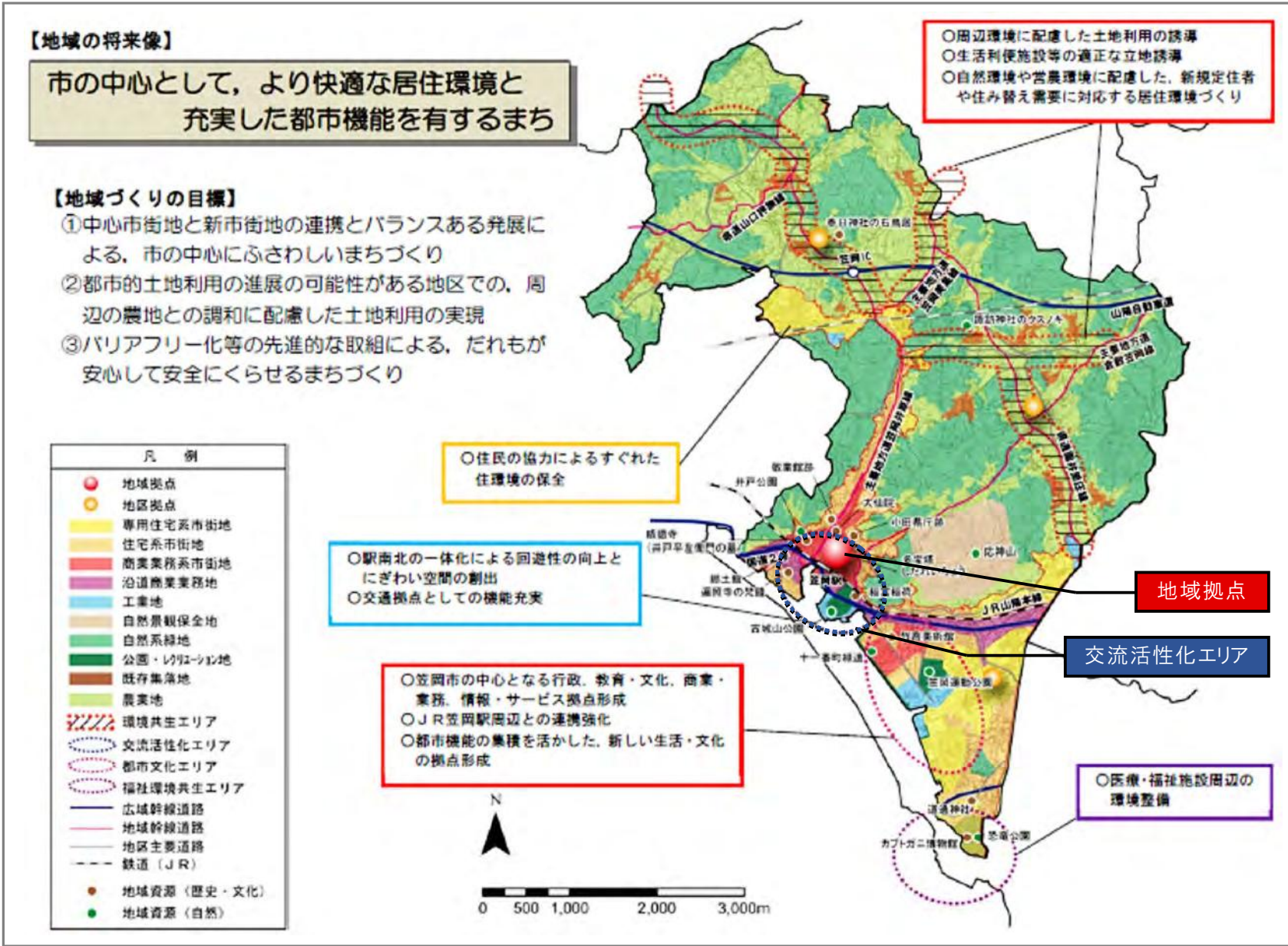
■笠岡市都市計画マスタープラン（平成 27 年 4 月、笠岡市） 地域別構想（中部地域）の地域拠点形成の方針

地域拠点	J R 笠岡駅南北地区の一体化、駅周辺の回遊性向上とにぎわい空間の創出など、集客・交流機能の充実を図ります。また、各種生活サービス施設の立地誘導を図るなど、中部地域の中心機能を担う拠点を形成します。
交流活性化エリア	本市及び井笠地域の中心としての都市機能の集積を図るとともに、J R 笠岡駅南北の一体化や、交通便利性の高い歩道整備等による交流機能の強化を図ります。また、番町地区との一体的な機能整備を推進し、多様な高次都市機能の導入を図りながら、情報性の高い、若者にとって魅力ある都心の形成を図ります。

■笠岡都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）
（平成 29 年 4 月、岡山県） ※一部加筆



■笠岡市都市計画マスタープラン（平成 27 年 4 月、笠岡市） 地域別構想（中部地域）のまちづくり構想 ※一部加筆



(5) JR笠岡駅周辺エリアについて

東西には国道 2 号・鉄道が横断し、南北には主要地方道である笠岡井原線・倉敷笠岡線が縦断する地理・歴史・機能あらゆる面での市の中心地

- ◆ 市面積：136.24k m²
- ◆ 人口：49,996 人（H29 年 3 月末時点）
- ◆ 世帯数：22,515 世帯（H29 年 3 月末時点）
- ◆ 笠岡駅の乗客数（一日平均）：3,692 人（H28 年度）
- ◆ 主要な施設の諸元

【市役所】

竣工年 1956~2001 年/敷地面積 3, 550 m²/延床面積 4, 299 m²

【市民病院】

竣工年 1963 年/敷地面積 12,568 m²/延床面積 11,569 m²

【図書館（地区外）】

竣工年 1978 年/敷地面積 1,056 m²/延床面積 1,752 m²

【シーサイドモール】

竣工年 1979 年/敷地面積 30,500 m²/延床面積 21,861 m²

笠岡市民病院



笠岡市役所



笠岡市立図書館
(六番町、地区外)



<凡例>

-  庁舎等
-  金融機関・郵便局等
-  日常購買施設
-  教育施設
-  医療施設
-  子育て支援施設
-  介護福祉施設
-  公営住宅
-  サービス施設
-  宗教施設
-  公園
-  山林

駅南の様子

笠岡シーサイドモール



2 本地区の資源と課題

(1) エリア内の資源 コンパクトなエリアに自然資源や歴史文化資源、市内の主要施設が集積している

資源① 山や海に囲まれ、歴史文化資源、観光資源、主要施設が本エリア内、駅 500m 圏内にコンパクトに集積

笠岡市民病院



笠岡市役所



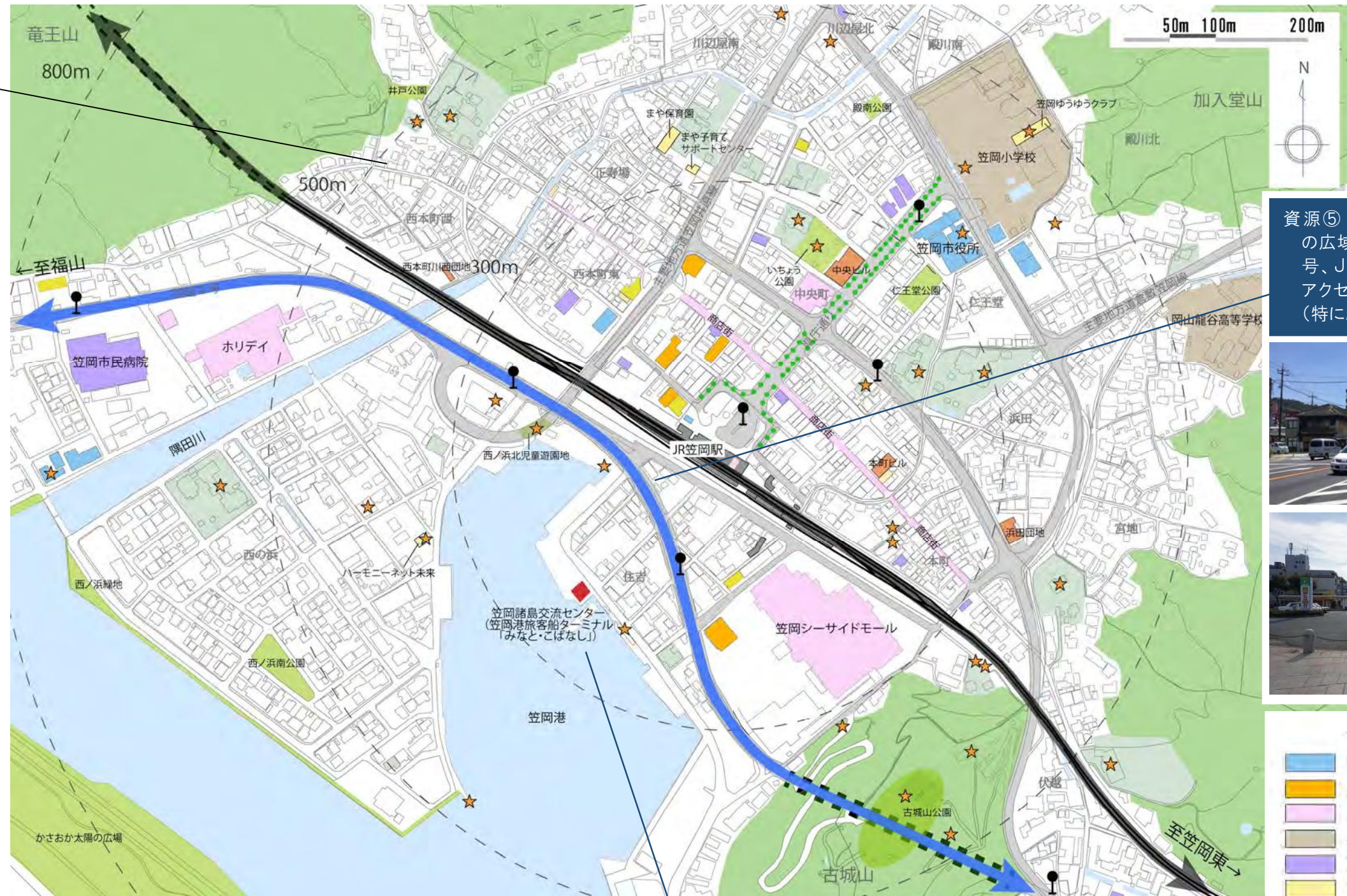
笠岡港



資源② 駅周辺は落ち着いたリラックスできる街の雰囲気、駅南側は中広域的にみると、笠岡ベイファームや大型公園施設など魅力的なオープンスペースが立地する



笠岡ベイファーム



資源⑤ 瀬戸内海沿いの都市の広域幹線道路である国道2号、JR駅があり、広域からのアクセスがしやすい立地環境（特に駅南側）



国道2号



駅前ロータリー

<凡例>

- 庁舎等
- 金融機関・郵便局等
- 日常購買施設
- 教育施設
- 医療施設
- 子育て支援施設
- 介護福祉施設
- 公営住宅
- サービス施設
- 宗教施設
- 公園
- 山林
- ★ 歴史文化資源

資源③ 駅南地区に新たな交流拠点である笠岡諸島交流センター（笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こばなし」）を開設、駅南口計画とともに活性化の兆し



外観

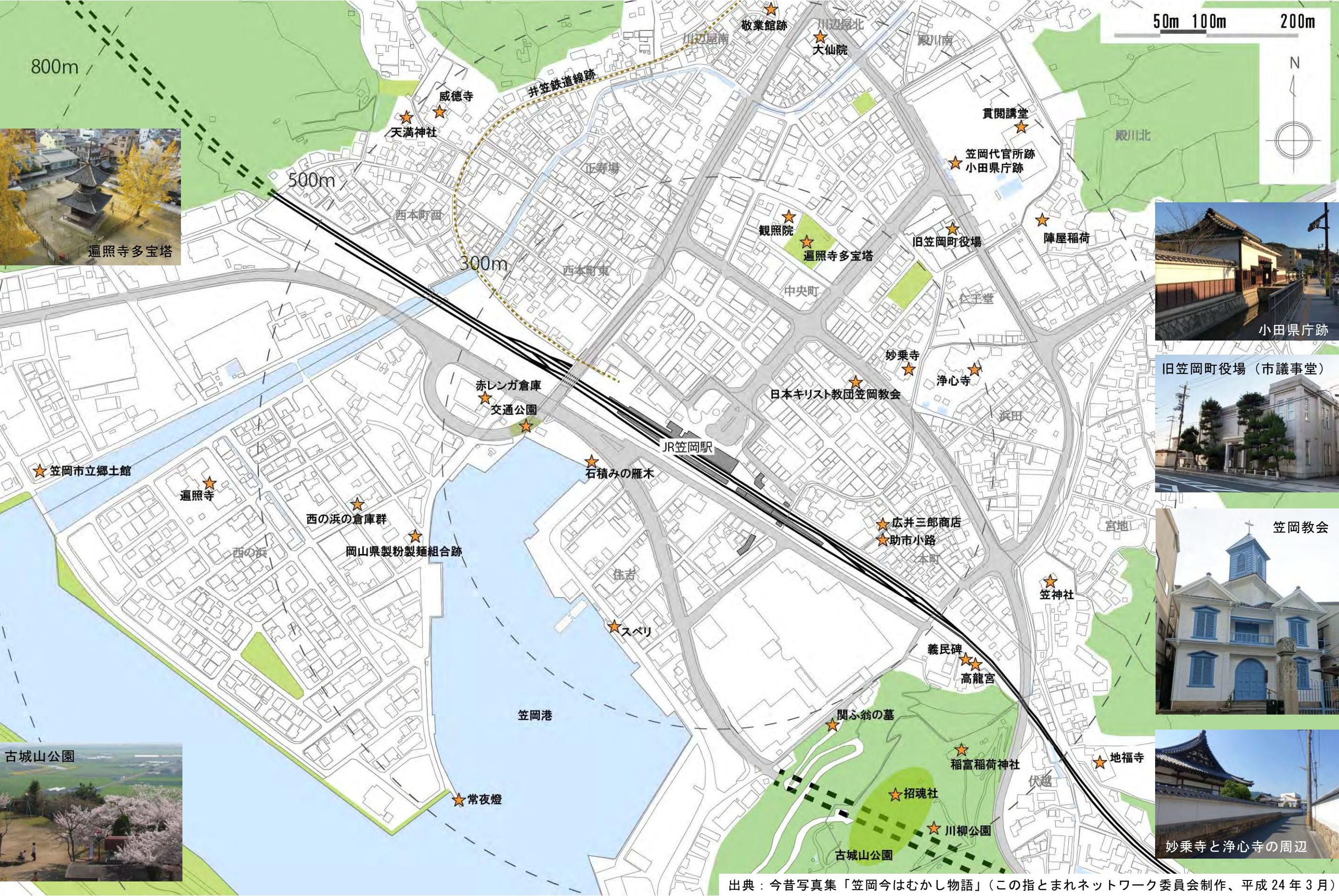


内観

笠岡諸島交流センター（笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こばなし」）

資源④ エリア内外の公共施設の老朽化・耐震化への対応として、施設の再整備・機能再編も考えられる

(参考) エリア内の歴史文化資源



出典：今昔写真集「笠岡今はむかし物語」（この指とまれネットワーク委員会制作、平成 24 年 3 月）

(2) エリア内・周辺の人の動き

駅北側は、日常的に学生等が徒歩や自転車で多数往来する。駅南側は、中広域でみると、市内有数の集客力を有する笠岡ベイファーム、笠岡総合スポーツ公園などが立地している。



(参考) エリア内の公共交通の状況

■定期船の運行状況

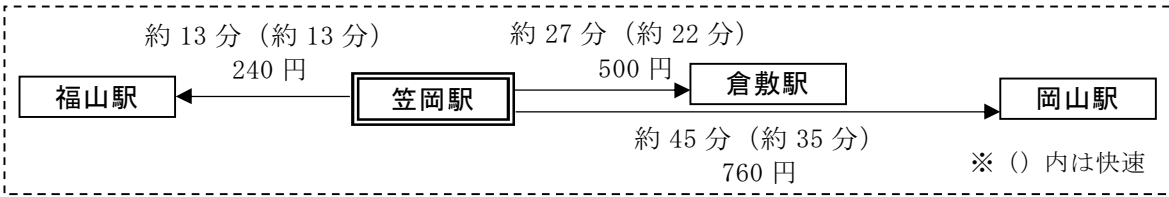
住吉港	航路事業者	方面	総本数 運行時間帯(笠岡発)
	三洋汽船	笠岡～佐柳本浦航路	8本(4本) 7～17(7～16)
		笠岡～飛島～六島航路	4本 6～16
伏越港	三洋汽船(さんよう)	笠岡～白石島航路	4本 9～17
	笠岡フェリー(大福丸)	笠岡～北木島航路	5本 6～16
	瀬戸内クルージング (金風呂丸)	笠岡～白石島～北木島航路	5本 7～18(土日7～17)

※ () 内は高速船(特別料金が必要) 出典: 各社HP(H30.1現在)

■電車の運行状況(JR笠岡駅)

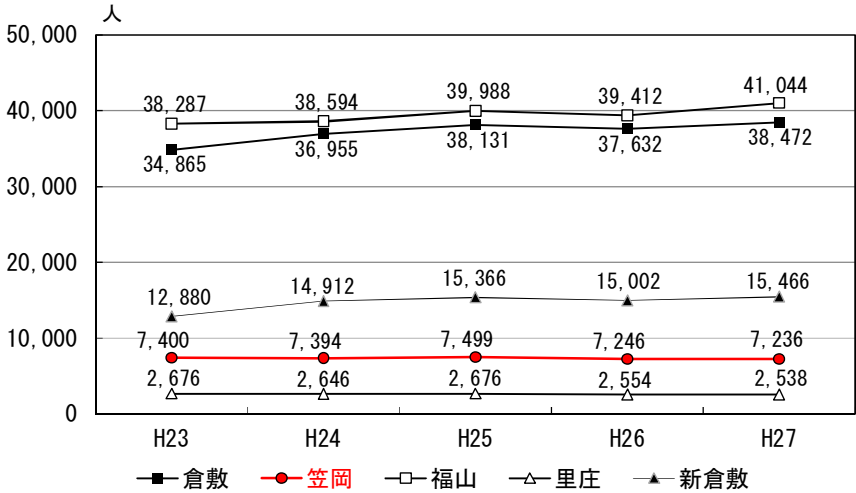
JR山陽本線 「笠岡駅」	方面	平日	土	日・祝
		総本数 運行時間帯 本数(ピーク時) 本数(平常時)	総本数 運行時間帯 本数(ピーク時) 本数(平常時)	総本数 運行時間帯 本数(ピーク時) 本数(平常時)
	上り (新倉敷・岡山方面)	69本(9本) 5～23(6～20) 5本/h(2本/h) 3本/h(0本/h)	69本(9本) 5～23(6～20) 5本/h(2本/h) 3本/h(0本/h)	67本(8本) 5～23(6～20) 5本/h(2本/h) 3本/h(0本/h)

※ () 内は快速



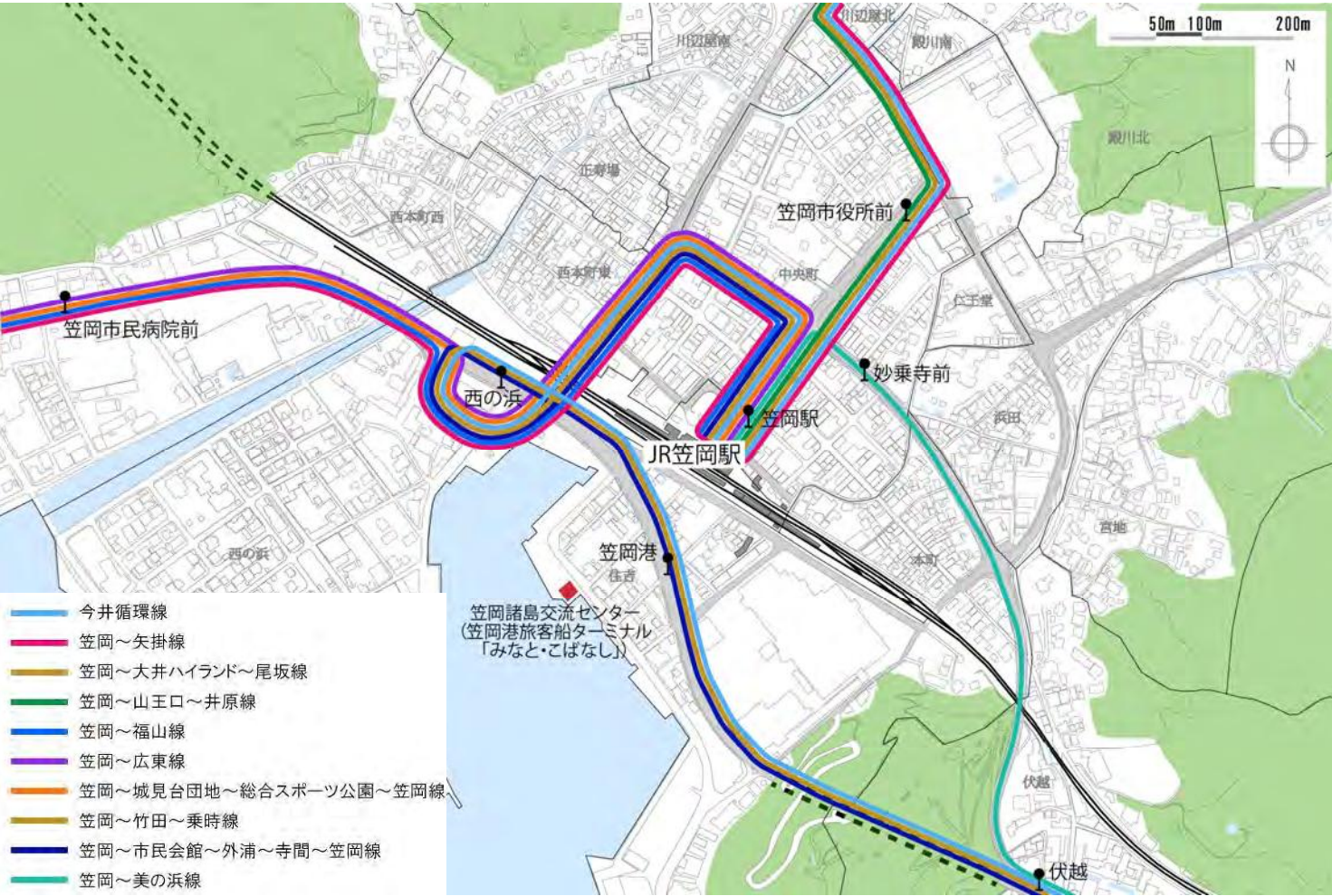
出典: JRおでかけネット(H30.1現在)

○笠岡駅及び周辺駅・主要駅の乗降客数の推移



出典: 岡山県統計年報、広島県統計年報(各年)

■バス運行ルート図



■バスの運行状況(笠岡駅)

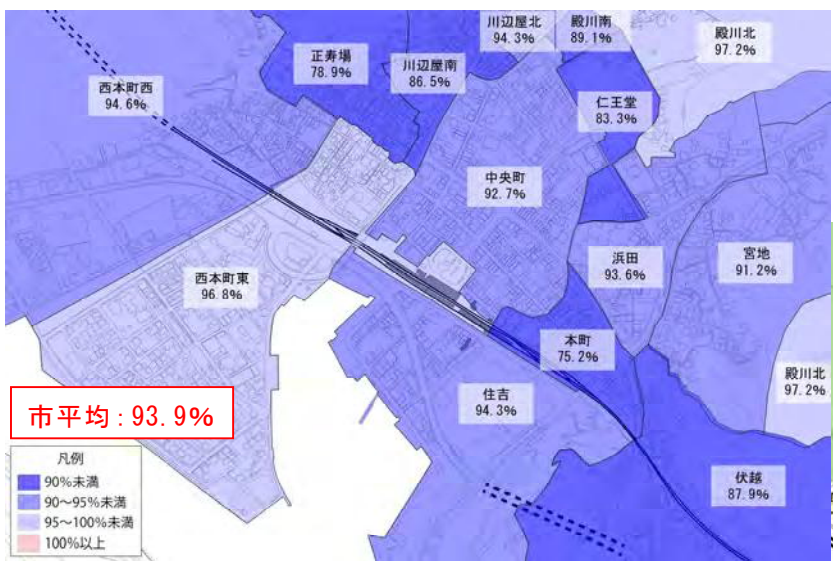
井笠バス 「笠岡駅」	方面	平日 総本数 運行時間帯	土 総本数 運行時間帯	日・祝 総本数 運行時間帯
	今井循環線	3本 8～12	2本 8～12	—
	笠岡～矢掛線	16本 6～19	10本 7～18	9本 8～18
	笠岡～大井ハイランド～尾坂線	16本 6～19	10本 7～18	9本 8～18
	笠岡～山王口～井原線	22本 7～21	13本 7～19	13本 7～19
	笠岡～福山線	4本 9～17	3本 9～17	3本 9～17
	笠岡～広東線	2本 11～16	2本 14～16	2本 14～16
	笠岡～城見台団地～総合スポーツ公園～笠岡線	4本 8～15	2本 8～15	2本 8～15
	笠岡～竹田～乗時線	4本 8～16	2本 10～15	—
	笠岡～市民会館～外浦～寺間～笠岡線	4本 9～17	4本 9～17	4本 9～17
	笠岡～美の浜線	15本 7～20	14本 7～18	13本 7～18

出典: 井笠バスカンパニーHP(H30.1現在)

- 市街地と笠岡諸島を結ぶ定期船は、通学など日常の交通手段として利用されている。平成28年度に新たな旅客船ターミナルを開設した。
- 平成27年時点では、笠岡駅の乗降客数は、里庄駅、大門駅より多いものの7,236人とどまる。ここ数年は横ばい。
- 笠岡駅が井笠バスの拠点となっており、福山方面など各方面への起点となっている。
- 市役所、市民病院や駅南はいずれも駅から近く、バス路線沿いに位置する交通利便性の高い立地。

（３）エリア内の課題 鉄道等で駅の南北が分断され、空き地・空き店舗も増加傾向で、人の流れをつくりエリア全体を活性化させるためには、民間活力を活かした商業機能・交通機能向上などが不可欠

■人口増減(H24－H29 人口比)の状況



課題① 駅を挟んだ南北は、JR山陽本線、国道2号によって分断されている

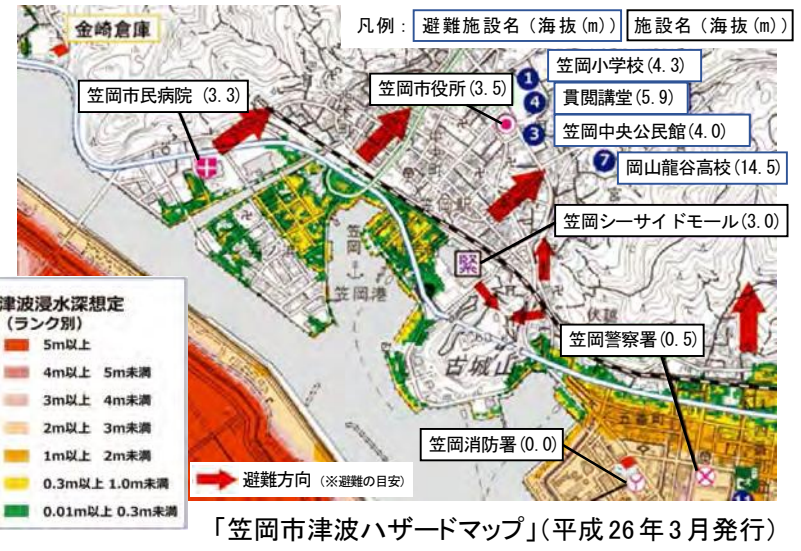


課題② 市全体の人口減少、少子高齢化等への対応として、市中心の本エリアにおいて、雇用創出、定住促進、魅力発信が期待される



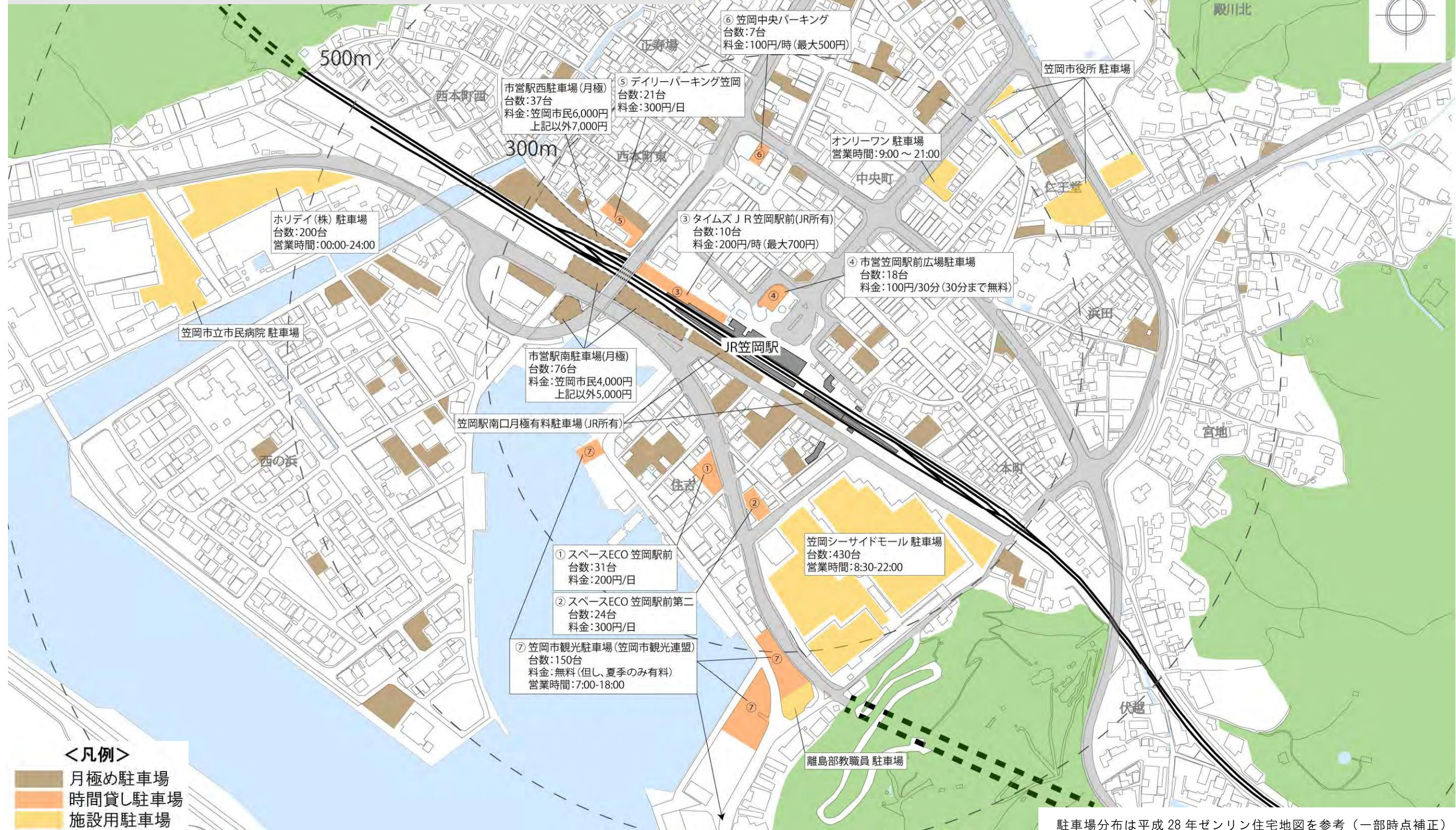
■エリア内の水害対策について

南海トラフ巨大地震(M9.0 以上)による津波高・浸水域を想定した「笠岡市津波ハザードマップ」(平成 26 年 3 月発行)によると、駅南側エリアは一部、津波浸水深想定が「0.01m以上 0.3m未満」「0.3m以上 1.0m未満」となっているが、平成 16 年の台風 16 号による高潮被害をふまえた高潮対策工事によって、海岸線については南海トラフ地震想定津波高さに対する防護高さは確保されている状況。



(参考) エリア内の駐車場の状況

- ・地形図・現地調査から把握した月極め・時間貸し駐車場などの分布状況は下図のとおり。
- ・月極め駐車場は線路沿いを中心に本エリア全体にまんべんなく分布している。
- ・時間貸し駐車場は笠岡駅の北側に下図③④⑤⑥の4ヶ所(56 台分)、国道 2 号沿いに同①②の 2 ヶ所(55 台分)が分布している。また、加えて駅南側には観光客向けの駐車場が整備されている。
- ・駅南側には笠岡シーサイドモールの利用者用駐車場が約 430 台分ある。



駐車場分布は平成 28 年ゼンリン住宅地図を参考(一部時点補正)

(4) 市民アンケート調査結果からの考察

本構想の目標像やまちづくりの方向性については一定の理解が得られたことを確認した。アンケート調査での市民の意見やアイデア、懸念事項などを参考に今後引き続き事業化に向けた検討を進める

①市民アンケートについて

調査期間：平成 29 年 7 月 19 日～8 月 2 日（無作為抽出のアンケート回収期間）

加えて、笠岡市第 7 次総合計画策定に向けて 7 月 23 日に実施された『ぼっけーまち会議』、『笠岡市内の高校生』を対象とした若者向けの連続ワークショップ参加者にもアンケート調査票を配布し、51 件（うち高校生は 18 件）の回答を得た。

- 調査目的：1）検討段階の本構想素案の目標像やまちづくりの方向性について、市民のイメージや考え方を確認すること
- 2）初期段階のまちづくりプロジェクトの立上げに向けて、若年世代を中心とした市民の意見やアイデアを収集すること
- 3）今後の駅施設や駅前広場のリニューアル、公共施設再編の検討の参考とするため、これらについての市民の意向や懸念を把握すること

結果概要：一般的な調査水準である標本誤差 5%、信頼度 95%は得られなかったが、無作為抽出のみでも 91%の信頼度は得られた。上記の調査目的を鑑みて、全回答結果 339 件を参考とする。

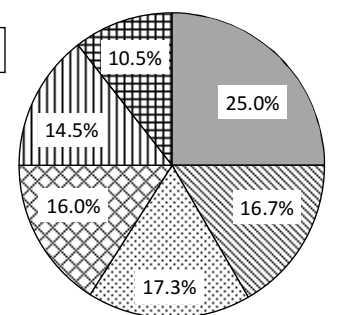
	配布件数（A） ※宛先不明等の 7 件を除く	回答件数 （B）	回答率 （B）／（A）× 100	標本誤差 5%の 信頼度
無作為抽出＋ ワークショップ 参加者	1, 246 件	339 件	27. 2%	92%
無作為抽出のみ	1, 193 件	288 件	24. 1%	91%

【回答者属性】

※年代の偏りを少なく、バランスのよい回答が得られるよう無作為抽出の方法を工夫した

【年代】

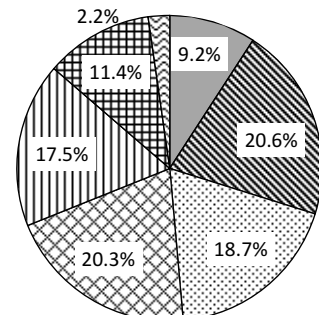
n=324



■ 20歳代以下
■ 20歳代
■ 30歳代
■ 40歳代
■ 50歳代
■ 60歳代
■ 70歳代以上

【居住地】

n=315



■ 北川、新山、吉田
■ 大井、今井
■ 笠岡
■ 富岡、番町、新横島・緑町、横江、美の浜
■ 金浦、城見、陶山
■ 大島、神島、神島外、干拓地
■ 高島、白石島、北木島、真鍋島、飛島、六島

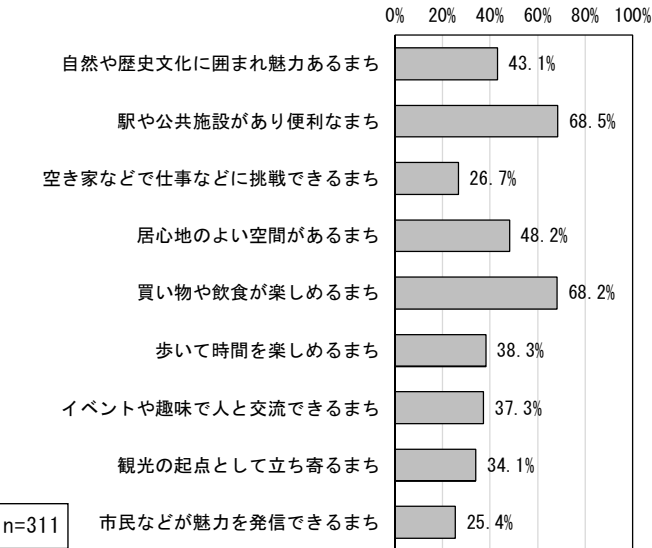
※無作為抽出分とワークショップ参加者分を含む

②調査目的 1）目標像やまちづくりの方向性の確認

- ・目標像に沿った「笠岡暮らしのイメージ」について、イメージに合うものを選択してもらったところ、いずれも 25%を超えた。
- ・自由意見では、「公共施設や商業施設、公共交通などが充実した都市的な利便性」と「自然環境や文化・歴史などの親しみやすさ」の両面を兼ね備えたまちが望ましいという意見が多くみられた。

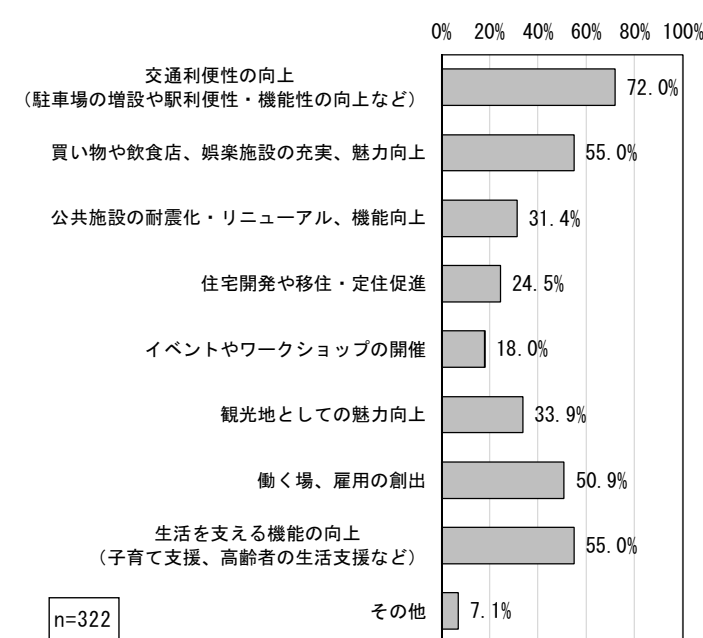
本構想で掲げている目標像、まちづくりの方向性について、市民の一定の理解が得られたことを確認した。

【笠岡暮らしのイメージ】



- ・また、「本エリアで重視してほしい都市機能」を尋ねたところ、「交通利便性の向上」が 70%強と多数を占めた。
- ・次いで、「買い物・飲食・娯楽施設の充実、魅力向上」と並び、「生活を支える機能の向上」、「働く場・雇用の創出」が挙げられた。
- ・自由意見では、「人が集まるまちづくり」「若者が集まれる場所づくり」といった人の集い・交流を重視する意見や「自然や歴史など本エリアの資源を活かすまちづくり」などの意見が挙げられた。

【本エリアで重視してほしい都市機能】

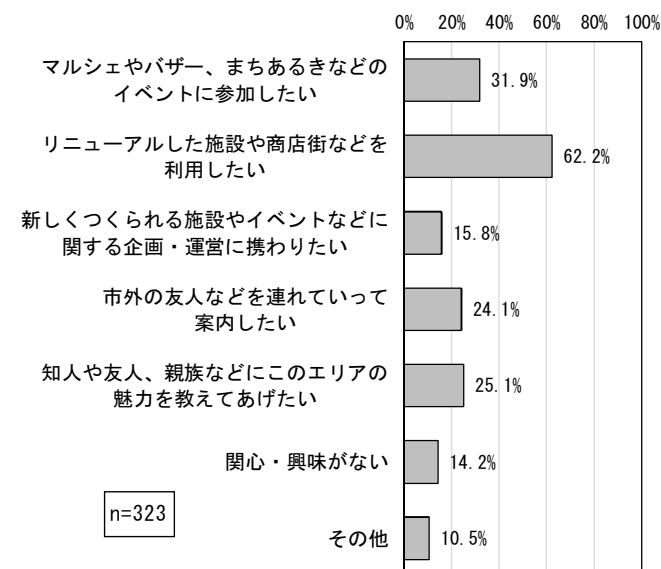


市の中心市街地としての機能以外にも、暮らしやすさや市民が集い、楽しむ機能についても重視してほしいという意見があり、本構想で掲げている目標像やまちづくりの方向性について、市民の一定の理解が得られたことを確認した。

③調査目的２）初期段階のまちづくりに関する市民の意見やアイデアの収集

- ・本エリアのまちづくりの取組みへの参加について、「関心・興味がない」は全体の 14.2%で、逆に残り 85.8%はいずれかの参加意向があり、市民全体の関心は高い。
- ・ワークショップ参加者の意見が多いものの、「新しくつくられる施設やイベントなどの企画・運営に携わりたい」が 15.8%と一定数いる。
- ・自由意見では、「ラーメンの食べ歩き」「子育て中の親や家族で参加できるイベント」「駅前を花いっぱいにする」「海沿いの有効活用」など、具体的なアイデアが多く挙げられた。
- ・また、若年世代を中心に、自らイベントの企画や運営に携わりたいという意見も多く寄せられた。

【まちづくりへの参加について】

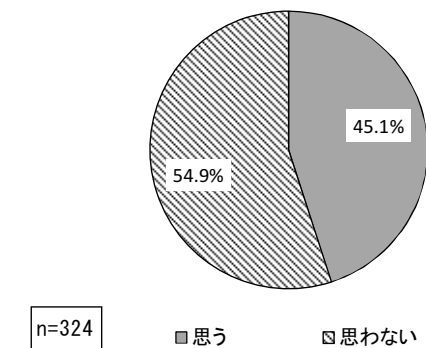


まちづくりの取組みに関して市民全体の関心は高く、市の中心地、顔となるエリアとしてのまちづくりが期待されている。今後、若年世代などの意見を取り入れ、活かしながら、第1段階のまちづくりプロジェクトの展開に取り組む。

■賑わいを創出する施設としての図書館の駅周辺への整備について

- ・整備すべきと「思う」と「思わない」がほぼ半数ずつとなっている。
- ・自由意見によると、「思う理由」としては、「駅前にあると、公共交通で利用しやすく、利用者も増える」「分館でもよい」という意見があった。一方、「思わない理由」としては、「駅前ではなく静かな場所にあってほしい」「駐車場の確保ができるか心配」という意見があった。
- ・また、高校生や子育て世帯・高齢者のアクセスしやすい立地を活かした「民間活力を活かした図書館以外の機能（カフェ、PC教室など）の併設」についての意見が多く挙げられた。

【図書館の駅周辺への整備について】

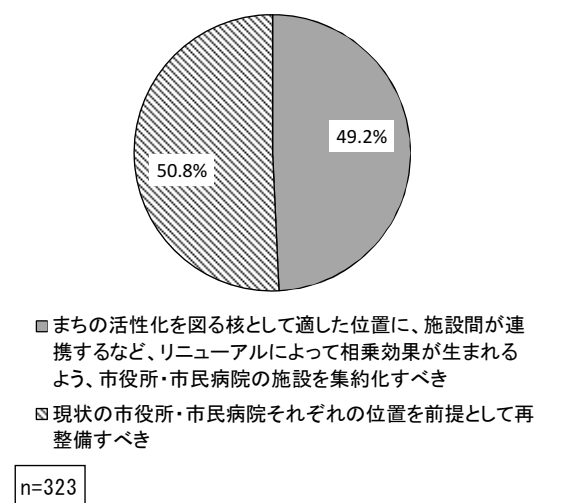


駅周辺に整備する際の駐車場の課題などが意見として挙げた一方で、駅前への図書館（分館）の設置や図書館以外の機能との併設などに対する期待があり、機能面や規模を含めて、今後検討を進める。

■耐震性のない市役所・市民病院の整備について

- ・「集約整備」と「現位置にそれぞれ再整備」がほぼ半数ずつとなっている。
- ・整備位置に関する自由意見としては、「バスの乗継ぎが要らない場所」「利便性のよいところ」「市の中心部がよい」といった意見が多かった。
- ・また、駅周辺に整備することについて、「津波による浸水がないか心配」「駐車場の確保や道が混まないか心配」という2点に関する意見があった。なお、浸水についてはP.8に示したとおり、南海トラフ地震で想定される津波高さに関する安全性は確保されている。
- ・また、整備位置以外の自由意見としては、「市民病院の機能面の向上」、「市民病院・市役所ともに早急な耐震化・建替え」に関する意見が多く挙げられた。

【市役所・市民病院の整備について】



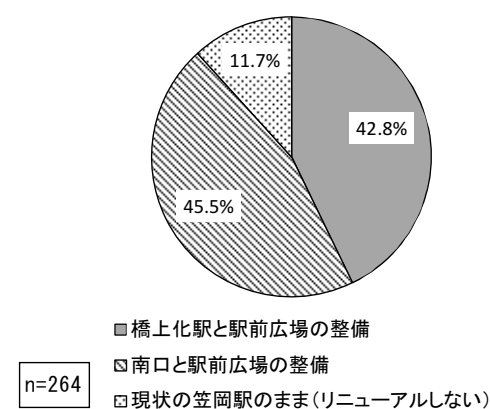
駅周辺への集約整備に関しては意見が分かれたが、駅周辺に集約整備する場合、駐車場が十分確保できるかを懸念する意見が多く、今後はその点に留意しながら、公共施設等総合管理計画との整合を図りつつ、検討していく。

④調査目的３）駅等のリニューアルや公共施設再編に関する市民の意向・懸念の把握

■駅の整備について

- ・JR笠岡駅の整備について、「現状のまま（リニューアルしない）」と回答したのは 11.7%のみで、約9割がリニューアルを望んでいる。
- ・そのうち、「橋上化」「南口と駅前広場の整備」が半々。
- ・自由意見では、「早期の整備を望む声」や「島につながる駅南口の整備を望む声」のほか、「駅のリニューアルだけでなく、他の機能（市役所、市民病院、マンション、観光、飲食）との併設が必要」、「短時間駐車するスペースが必要」などの意見があった。

【駅の整備について】



駅については、リニューアルへの期待が圧倒的多数である。駅南北のまちづくり効果の大きい橋上化を見据えて、JR西日本の協力を得ながら、事業実施を目指す。

3 めざす目標像

(1) めざす目標像

“まち・ひと・しごと創生”の観点から、次のとおり本エリアのめざす目標像を定め、魅力を高めていく。

■本エリアのめざす目標像

港町・寺町などの「歴史・文化」、海・山に親しみやすい「自然」が共存し、誰もが居心地のよい居場所を見つけられる、市の中心にふさわしい「都市機能拠点」(まち)として、歩いて回れる魅力的なスポットや施設がつながることで、市民や来訪者の出会いや交流(ひと)、新たな仕事や創作活動などを通じた次世代を担う若者らの活躍や集い(しごと)が活発に生まれるエリア

本エリアは、交通の要衝として発展してきた本市の中心地であり、玄関口である。公共施設や商業施設・商店街、病院・学校等の都市機能が集積する一方、駅のすぐ目の前に海と山が広がり、整然とした街並みや歴史的な建築物などが混在するコンパクトなまちである。また、温暖で晴天の多い気候で、エリア周辺では公園などのオープンスペースが人を集める魅力を有している。

こういった、生活の基盤となる都市の利便性を享受しながら、歴史や自然に親しみ、心身ともに落ち着いた居心地がよい環境の中で、人と人が出会い・交流し、活動する「笠岡ならではの暮らし(笠岡暮らし)」を実現できることが、本エリアの大きな魅力といえる。市民が「笠岡暮らし」を体感でき、さらに外向けに発信していくまちとして、魅力を強化し、エリア全体の回遊性の向上をめざす。

(2) まちづくりの方向性

めざす目標像の実現に向けて、まちづくりの方向性に基づき、エリアの特徴を活かしたまちづくりを推進する。

方向性1 交流を育む 都市機能拠点の形成 <まちづくり>

公共交通が充実し、市内外からアクセスしやすい立地を活かし、現在集積している都市機能(交通・商業・観光・行政等)をさらに充実させ、機能向上・魅力向上を図る取組みを進める。

方向性2 健康をつくる 歩いて暮らせるまちづくり <ひとづくり>

コンパクトなエリアに多様な機能が集積することにより、快適で魅力的な歩行者ネットワークで人と人、人とまちがつながり、市民交流の活性化や健康寿命の延伸に貢献する取組みを進める。

方向性3 若者が集う 賑わいのあるまちづくり <しごとづくり>

少子高齢化や人口減少を食い止めるため、特に若者を中心とした仕事をつくる環境を整え、活力と賑わいのあるまちを取り戻す。あわせて、「笠岡暮らし」を広く発信し、次世代を担い、市の発展をリードする若者が参加し、集い、交流する取組みを進める

(3) 本エリアで実現する「笠岡暮らし」のキーワード

<まち><ひと><しごと>の充実に資するため、「暮らしやすさ」「楽しみ」とともに「発信力」をキーワードに、以下のようなまち、暮らし方の実現をめざす。

暮らしやすさ

- ①福山・倉敷へのアクセスに優れ、エリアの都市機能に加え、海・山の自然や歴史文化資源に囲まれた、魅力のあるまち
- ②リニューアルした駅、市役所、医療施設があり、買い物や飲食もできる、歩ける範囲に施設がそろって便利なまち
- ③空き家や空き店舗を使って、新たな仕事や創作活動などに挑戦できるまち
- ④人と出会い、語らい、スローライフが楽しめる居心地のよい空間があるまち

楽しみ

- ⑤買い物や飲食ができ、ゆったり時間を過ごせるまち
- ⑥市役所等で用事を済ませたあと、歩いて時間を楽しめるまち
- ⑦イベントや趣味を通じて、人と交流できるまち
- ⑧島や市内観光の起点として立ち寄る楽しみのあるまち

発信力

- ⑨“暮らしやすさ”、“楽しみ”に関する情報を発信するとともに、居心地のよい「笠岡暮らし」を再発見し、SNSなどで発信できるまち
- ⑩周辺地域と連携し、市全体の魅力を発信できるまち



※イメージ



※イメージ



※イメージ

(参考)「笠岡暮らし」の生活シーン

このエリアでの暮らしは、週末にはゆったりとした時間の中で、沖合いで魚釣りをしたり、笠岡十名山巡りをしたり、気軽に自然遊びができる。また、歩いて巡れる範囲のなかに寺社や歴史ある史跡があり、長い歴史のなかで培われてきた成熟したまちの雰囲気を感じながら、県庁通りなどでゆったりとまちを散策する楽しみもある。干拓地では季節ごとに花を存分に楽しめて、気が向けばいつでも笠岡諸島の島々に足を伸ばすこともできる。福山や倉敷のような、笠岡とは違った魅力をもつ大都市・観光地へもすぐに行ける。



干拓地



白石島

4 都市機能配置方針

ゾーンの考え方

新拠点ゾーン／活性化の起爆剤となる内外から人を呼び込み、発信する拠点

駅前立地で、周辺市との幹線道路である国道2号、笠岡諸島への旅客船ターミナル、既存の商業施設が集積するゾーン。

多方面からアクセスしやすい立地を最大限に活かし、本エリアの活性化の起爆剤とするため、市内外から人が訪れ、「笠岡暮らし」を体験し、発信する拠点として位置づける。

駅北市街地ゾーン／豊かな資源を活かし、まちあそびやまちの暮らしを楽しむゾーン

笠岡を形づくってきた様々な歴史文化資源が集積し、成熟し落ち着いた街並みや商店街、生活を支える施設などがあり、住みやすさが評価される一方で、空き家・空き店舗が増加しつつあるゾーン。

駅周辺の賑わい・交流空間を形成することで、まちを巡り、滞在する楽しみを創出する。さらに、学校等の立地を活かした文教エリアとしての魅力を向上させるとともに、住まいや働く場所などが充実した、若年層や子育て層、高齢者などが、利便性が高く魅力的なまちなかの暮らしを楽しめるゾーンとして位置づける。

定住促進ゾーン／海に近い暮らしなど新しい住まいを享受できるゾーン

埋立て、干拓でまちを切り拓いてきた笠岡を象徴し、駅や海、幹線道路に近い立地でありながら、閑静な住宅地が広がるゾーン。

海に近い暮らしや時代を先導する新しい住まいのある、住むまちとしての魅力を創造・発信し、人口増・定着につながる定住促進を図るゾーンとして位置づける。

まちづくりの考え方

新交流拠点／市内外から人が集まり、交流する施設の整備

笠岡諸島交流センターの整備を契機として、笠岡駅前の新たな顔として、市内外から人が集まり、交流する機能を向上させる。あわせて、駅南北の往来などの交通機能を向上させ、エリア全体の活性化を導く。

交流拠点／暮らしを支え、魅力向上を図る新たな機能の導入

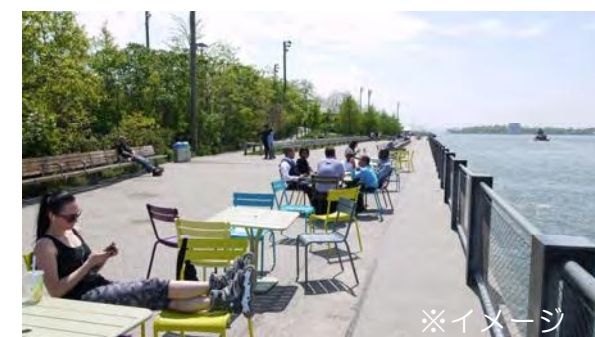
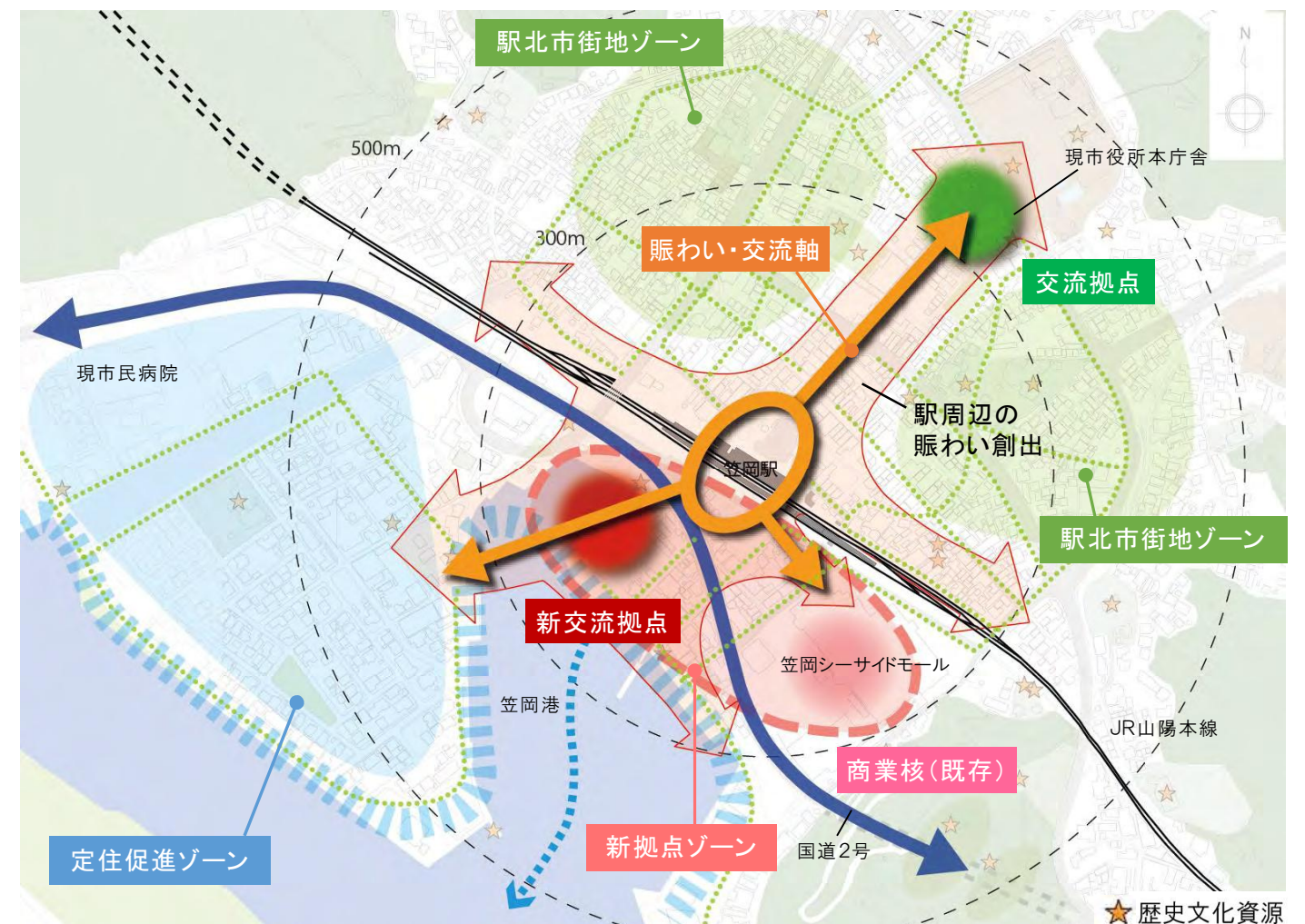
市役所のリニューアル等を契機に、子育て、交流、文化体験、起業・就労など、まちなかの暮らしを支え、魅力的にする機能を新たに導入する。

新たな暮らしのイメージを発信する先導的な事業の実施

空き家・空き地、公共施設跡地などを活用し、新たな笠岡暮らしのイメージをつくり、発信するモデル的な住宅地開発などを誘導する。

賑わい・交流軸の考え方

県庁通り、駅の南北が接続する駅周辺、駅の南側から西の浜方面、笠岡シーサイドモール方面につながる軸を『賑わい・交流軸』として、居心地のよい街路・沿道空間を形成し、エリアの回遊性向上を図る。



5 プロジェクト展開イメージ（例）

第1段階：駅の北側→第2段階：駅南北の接続部分→第3段階：駅南側と、各ゾーンの強み・資源を活かし、段階的にプロジェクトを展開する。
（以下、図・写真はイメージ）

★ 空き地・空き家などを活用した居場所づくりや機能導入

プロジェクト 第1段階
駅北・県庁通りエリア：若者を中心に地域を巻き込んだ“まちの場づくり”によって、居心地のよいエリアをつくる（アウトドアストリート・空き店舗活用等）

概ね5年後を想定

雇用創出などの支援機能の導入

県庁通りなど道路空間を活用した、居心地のよい空間づくりと出会い・交流の仕掛けづくり（アウトドアストリート）

JR 笠岡駅

駐車場・駐輪場の確保

空き地・空き家・空き店舗の魅力的な活用促進

例：交流広場のある施設

例：ライブラリー併設

工程イメージ	概ね 5 年後	概ね 10 年後	概ね 15 年後	概ね 20 年後
第 1 段階	→	→	→	→
第 2 段階	→	→	→	→
第 3 段階	→	→	→	→

事業完了後のイメージ

プロジェクト 第2段階
駅南北接続エリア：施設のリニューアル＆リノベーション等によって、駅南北をつなぎ、面的な広がりをつくる

概ね 10 年後を想定

駅南北の接続性向上を図る橋上化をめざして駅リニューアル

例：駅の橋上化

まちの歴史を物語る建物のリノベーション・新たな機能導入

海沿いの居心地のよい空間整備（ベイスайдストリート）

プロジェクト 第3段階
駅南エリア：駅直結の官民連携施設等をつくり、新たに笠岡の魅力を高め、人が交流する機能を広げる起爆剤とする

概ね 15 年後を想定

駅南への新交流拠点の形成（複合施設等）

事業者等の連携によるパーク＆ライドの推進

例：交流広場のある施設

例：ライブラリー併設

事業完了後のイメージ
駅 300m～500m範囲：笠岡市の「顔（シンボル）」「交通拠点」「人の交流拠点」として、“暮らしやすい・楽しめる・発信力あるエリア”を実現する

概ね 20 年後を想定

公共施設跡地などを活用した住宅開発等の推進

拠点施設と連携した空き家・空き店舗の医療・福祉・起業等への活用

第0段階
(～2017年度)

駅周辺エリア:本構想の方向性に沿ったリノベーションや居心地の好い空間づくり等が進められ、まちづくりの機運が高まりつつある



井戸会館再生 地域の拠点、多世代交流を促進する拠点として、公衆浴場を懐かしの映画上映や若者会議等を行う多目的室として改修、バリアフリー化（平成29年度）



町のテラス開設 笠岡地区まちづくり協議会事務所内にオープン（平成28年度）

域学連携事業

笠岡諸島交流センター(笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こばなし」)内に設置されている「地域創生コモンズ・かさおか」を拠点として、岡山県立大学を中心とした県内9大学の学生や高校生と連携・協働して地域課題の掘り起こしや研究を行う



旅客船ターミナル「みなと・こばなし」の開設

新たな交流拠点である笠岡諸島交流センター(笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こばなし」)を開設(平成28年度)



国道2号バイパスの整備

国道2号バイパスが整備されることで、駅周辺の国道2号の渋滞緩和が進み、利便性が向上(現在整備中)



中心市街地空き店舗利用促進補助事業

中心市街地の空き店舗の解消を図り、商店街等の魅力や賑わいを取り戻すため、空き店舗を賃借し出店する新規事業者等に対して、改装費や賃料、広告宣伝費を補助する制度を新設（平成29年度～）

※赤枠内が対象範囲

東本町商店街リニューアル

アーケード撤去(平成29年度予定)



フラワーアートステーション

JRのキャンペーンによって花で駅を装飾するアートを市内のフラワーアーティストが実施（平成27年度～）



いいところめぐりバス

デスティネーションキャンペーンの一環として、笠岡市内の主要観光施設にアクセスする路線バスを運行(平成27年度～)
JR笠岡駅 → 竹橋美術館 → 美の浜バスターミナル → カブトガニ博物館 → 道の駅笠岡ベイファーム

デジタルサイネージの設置

笠岡駅の利用者に、路線バス及び旅客船の乗り場と時刻表を案内（平成27年度～）



6 第1段階のプロジェクトアイデア

若者・高校生などワークショップ参加者との意見交換や市民アンケートの自由意見欄などで出てきた特徴的な意見を参考に、本構想の先鞭をつけ、まちづくりの機運を高める第1段階のプロジェクトについて、具体的なアイデアを例示する。今後、関係者らと議論を重ね、早期の事業着手に向けて検討を進める。

方向性1 交流を育む 都市機能拠点の形成

<市民の意見>

- ・本エリアのまちづくりのテーマでは「自然と触れ合える」が最多
- ・海が感じられる場所、美しい海とともに暮らせるまち
- ・温泉を掘る、温泉施設をつくってほしい
- ・図書館そのものよりも、図書館に付属するフリースペースやカフェスペース、教室などがほしい
- ・高齢者にやさしいまちづくり、高齢者と若者の共存、高齢者がくつろげる場所

主なプロジェクトアイデア：みなと・こばなしライブラリープロジェクト

高齢者を含め、多世代が自然を身近に感じ、健康的にくつろぎ、交流することのできる「居場所」をつくる

方向性2 健康をつくる 歩いて暮らせるまちづくり

<市民の意見>

- ・地域の特産物などをつくって、PRできるようになるとよい。まちの魅力を発信する“目玉”がはっきりとわかるほうがよい
- ・笠岡市の特色、他市にないものを見つけて伸ばしてほしい
- ・駅周辺だけでなく、他地域へ広がるまちづくり
- ・駅周辺を花いっぱいになれば行きたくなる。フラワーアーティストとのコラボが良かった

主なプロジェクトアイデア：花畑サミットプロジェクト

笠岡のもつ資源（ベアフームの花畑、笠岡ラーメンなど）を活かし、周辺都市と交流したイベントを開催し、岡山・広島を中心地としてのPRを図る

方向性3 若者が集う 賑わいのあるまちづくり

<市民の意見>

- ・「イベント等」は年齢が若いほど支持、「参加したい」だけでなく、「企画・運営に携わりたい」と考える若者（30歳代以下）が一定数いる
- ・若者が利用できる、集まれる場所をつくる
- ・駅周辺にくつろげる空間がなく、通り過ぎてしまう
- ・駅の近くに高校生が帰り道に寄れるような、広くてゆったりと座れるカフェのような場所がほしい

主なプロジェクトアイデア：バス停の魅力化プロジェクト

駅前目のつきやすいバス停に高校生が参加した“集まりたくなる場所”をつくることで、賑わいと話題とともに、公共交通への関心を高める

（アイデア1）みなと・こばなしライブラリープロジェクト

平成28年度に開設された「笠岡諸島交流センター（笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こばなし」）」に笠岡周辺や島、まちづくり、健康などをテーマとした本を集めた本棚、カフェスペースなどのある、高齢者から若者、子どもまで多世代が集い、交流する居場所となる「ライブラリー」を設けることが考えられる。大学と連携したワークショップや周辺商店などによる出張販売なども実施することが考えられる。海を身近に感じながら落ち着いた雰囲気にくつろげる場所として、笠岡駅周辺を象徴するランドマークをめざす。

●関連事業：笠岡港（住吉地区）待合所整備事業（企画政策課）＊完了

域学連携の地域活動拠点「地域創生コモンズかさおか」設置（岡山県立大学）＊完了

●関係者：連絡船会社、大学、市民有志、ぼっけーまち会議、近隣商店主など

●検討事項：導入機能（ライブラリーに付加するもの、カフェやキッズスペースなど）

運営体制（日常の管理・責任者、イベント等の実施主体など）

運営スキーム（会員登録制、イベント時の貸しスペース、市図書館との連携など）

蔵書テーマ（笠岡、島観光・島暮らし、まちづくりなど）



参考事例）まちライブラリー@大阪府立大学

・「まちライブラリー」とは、カフェやオフィス、個人宅、病院、寺、アウトドアまで、さまざまな場所にある本棚に人が集い、メッセージ付きの本を通じて自分を表現し、人と交流する、みんなで作る私設の図書館。

・駅の近くにある大学のサテライトキャンパスに設置された、蔵書ゼロから始めた「みんなで作るライブラリー」。

・大学は本棚だけを設置し、有志を募って、イベント（植本祭）のたびにテーマに沿った本を参加者が持ち寄り、蔵書数を増やしている。



まちライブラリーの様子

(アイデア2) 花畑サミットプロジェクト

笠岡バイファームが市外から人を集める一方、福山市もバラのまちとしてPR。笠岡・福山のほか、県内の蒜山高原や後楽園、広島県内の世羅高原農場など花で有名なエリアが参加し、笠岡駅前を競い合って花で彩ったり、コンテストを開催する。具体的には、フラワーアーティストと住民、商店街らが協力し合い、駅前空間への花飾り、周辺の花畑の紹介、コンテストなどを行うことが考えられる。周辺都市と連携しつつ、市民の本エリアの魅力発見、市外への市のPRに活用できるイベントとしての定着をめざす。

また、イベント的に実施するほか、日常的に駅前の公共空間に地域住民や商店、学校などが手入れをする花壇を設け、駅前空間を花で彩ることも考えられる。

- 関連事業：デスティネーションキャンペーン（平成27～29年度、JR西日本・企画政策課）
- 関係者：フラワーアーティスト、商店街、まちづくり協議会、小中学生、JRなど
- 検討事項：イベントの実施時期・企画・場所
イベントの実施体制（実行委員会方式、連携する主体・自治体など）
花飾りをするスペースや設備の所有者の許可
事業資金（協賛金、イベント時の出店など）



参考) 水を巡る緑の回廊づくり事業

- ・旧笠岡湾沿岸を巡る公園や水路沿いの緑地を配置し、緑の回廊として整備する事業。十一番町緑道(右写真)や西ノ浜緑地、かさおか太陽の広場が整備されている。
- ・これらの緑道や緑地と駅・住吉港・伏越港をつなぎ、さらに花で彩ることによって、本エリア内や周辺エリアとの回遊性向上、魅力発信を図ることが考えられる。



参考事例) 神戸フラワーロード

- ・神戸市の六甲山麓から、港湾地区(新港)に至る坂道。
- ・日本初といわれる大きな花時計があるほか、沿道の花壇には「スポンサー花壇」が設けられ、企業の協賛金によって彩り鮮やかに維持管理されている。神戸市には「スポンサー花壇」のほかにも市民から協賛を得る「ふれあい花壇」、市民が直接維持管理を行い、市が管理費を支援する「市民花壇」を設け、『花のまち神戸』の実現をめざしている。



花時計

(アイデア3) バス停の魅力化プロジェクト

市役所前のバス停や駅前広場内のバス停など、利用客の多いバス停について、バス会社と連携し、従来のバス停のデザインに捉われないデザインで「居心地のいいバス停」へとリノベーションする。具体的には、バス停を「インスタ映え」する居心地のいいスペースに改修するデザインアイデアを市内の高校に通う高校生(美術部等)から募集し、その中から優秀な案をもとに実際に改修を行う。ソファが置かれたリビングのようなバス停や、ベンチが不思議な形になっているバス停など、思わず写真に撮ってシェア(共有)したくなるようなデザインに改修し、高校生らが集まり、賑わい、本エリアに愛着を抱くきっかけとなるスポットをつくることをめざす。

- 関連事業：笠岡高校1年生のACT「地域学」(平成29年度、笠岡高校・都市計画課)
- 関係者：バス会社、市内高校(美術部等)、ぼっけーまち会議
- 検討事項：事業の実施体制(連携する高校、バス会社など)
事業資金(社会資本整備交付金など)、改修費用の設定
対象とするバス停の選出
公募の方法、時期、応募条件、広報戦略など



参考事例) 宮交バスデザインコンテスト

- ・宮交バス・宮崎市・県建築士会がバス停のデザインやアイデア、写真に関するコンテストを開催しており、最優秀作品は実際に施工される。
- ・また、宮交バスは、県や市、県内企業等と連携し、県内小学生を対象にしたラッピングバスのデザインコンテストも開催しており、平成29年の第9回では、応募作品総数は3,313点にのぼり、一次、二次、最終審査を経た「学年別優秀賞」6点を選んだ上で、「最優秀賞」に選ばれた作品は、市内の祭りの先導車として披露された上、県内で1年間運行される。



バス停コンテストの最優秀作品(宮崎市HPより)